

岐阜県土岐郡（現土岐市）泉町で世界で初めて発見されたパレオパラドキシア タバタイの全身骨格化石の紹介

1950年（昭和25年）10月

発見場所：岐阜県土岐郡（現土岐市）泉町久尻 隠居山 瑞浪層群明世累層久尻相

幼獣全身骨格（泉標本 東京上野博物館収蔵）

東京大学地質学教室 高井冬二、横浜大学 鹿間時夫教授ら（デスモスチルス研究委員会）によって 1500 万年前（新生代第3紀中新世前期）のデスモスチルスの化石と鑑定された。（後にパレオパラドキシア タバタイとされた）

発見者：東 充彦（泉町大坪 多治見高校2年生）

発掘者：戸松 滋正（名古屋市城山中学校教諭）



東さん



戸松さん

（土岐市旧ホームページ 紹介映像より）

発見場所の隠居山（いんきやま）

アクセスマップ (http://kama.3zoku.com/Documents/pa/pale_map.pdf#view=FitH)



発見当時は草木の無い禿山でした

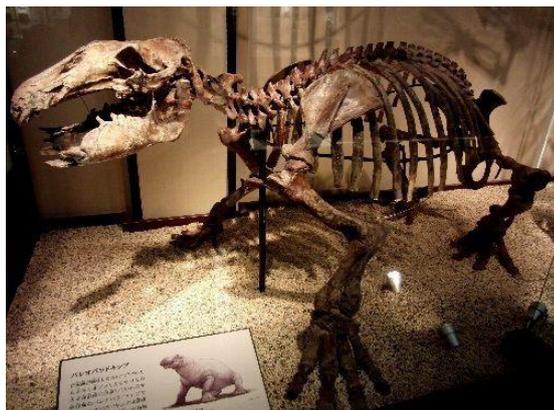


土岐市文化会館（泉標本）



レプリカの展示

瑞浪市化石博物館（泉標本）



国立科学博物館



岐阜県立博物館

※瑞浪市化石博物館

(https://www.city.mizunami.lg.jp/kankou_bunka/1004960/kaseki_museum/1003869/index.html)
(個人サイト http://underzero.net/html/tz/tz_128_1.htm)

※横須賀市自然・人文博物館に下顎の化石の複製が展示されています

(http://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp/retrieval/frame_materiall.html) パレオで検索

※紹介映像 (<http://kama.3zoku.com/Documents/pa/DESUMOSU282.mp4>)

※岡田良美メモ (http://kama.3zoku.com/Documents/pa/pale_memo.pdf#view=FitH)

※岡田良美取材した昭和 26 年の高等学校の新聞記事

(http://kama.3zoku.com/Documents/hist/k_s26_12izumi.jpg)

土岐市（昭和30年に市制発足）では発見当初よりデスモスチルスと紹介され昭和50年の市の資料においてもデスモスチルスとなっています。ただし昭和49年の資料では両方記載されており、変更期であったようです。昭和55年の新聞報道ではパレオパラドキシア・タバタイと紹介されています。以降の市の資料は改定されています。
岡田良美のメモではデスモスチルスとしていますが、昭和26年6月10日の借用書のメモでは「品名：デスモスチルス幼獣化石（パレオパラドキシア コルンワリウス）」と記されており、「パレオパラドキシア」または「コルンワリウス」と認識されていたようです。
発見月については、4月25日のメモがあるところからそれ以前と思われる。公式には10月となっていますが、メモにあるように戸松氏が来訪されたのは9月24日でありデスモスチルスではないかの結論が出たのが10月と思われます。
昭和30年の市の資料：http://kama.3zoku.com/Documents/pa/pale_s30.pdf#view=FitH
昭和49・50年の市の資料：http://kama.3zoku.com/Documents/pa/pale_s49s50.pdf#view=FitH
昭和55年の新聞報道：http://kama.3zoku.com/Documents/pa/pale_s55.jpg

パレオパラドキシア（・タバタイ） 学名 *Paleoparadoxia tabatai* 分類 束柱目パレオパラドキシア科

約1,300万年前に絶滅した束柱目の哺乳類。学名の由来は「古代の不思議なもの(→paradox,難問,矛盾)」の意。西日本から北米、メキシコまでの太平洋沿岸に生息していた。

(<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%91%E3%83%AC%E3%82%AA%E3%83%91%E3%83%A9%E3%83%89%E3%82%AD%E3%82%B7%E3%82%A2>)
ウィキペディアでは全身骨格が「瑞浪市で発掘」と記されていたが、瑞浪市で発掘されたのは骨格の一部とデスモスチルスの頭骨。
(**デスモスチルスの頭骨は世界初の発見 1898 明治 31 年 戸狩標本**) 他のサイトでも「瑞浪市で発掘」の記述があるが、発見された地層が同じ瑞浪層群であり、瑞浪化石博物館に展示があることから誤解が生じていると思われる。

束柱目（そくちゅうもく、Desmostylia、ギリシア語で「束ねられた柱」の意）の下位分類を示す。生息年代は古生物学事典などに依った。（付表1 年代表を参照のこと）【デスモスチルス科 Desmostyliidae】

ベヘモトプス属 Behemotops（漸新世後期 2000 万年前）

デスモスチルス属 Desmostylus（中新世 2300 万年前）

【**パレオパラドキシア科 Paleoparadoxiidae**】

アショロア属 Ashoroa（漸新世 3300 万年前、名前は足寄町に由来）

Paleoparadoxia（中新世 2300 万年前）

【**コルンワリウス科 Cornwalliidae**】 **コルンワリウス属**

Cornwallius（漸新世-中新世 3300 - 2300 万年前）

Cornwallius was named by Hay (1923).

※タバタイ(tabatai)は属の下位分類の種を表す



wikipedia

親リンク (http://kama.3zoku.com/Documents/pa/pale_google_map.html)

付表 1 年代表

代	紀	世	年代 (万年前)	概要
新生代	第四紀	完新世	1 万 1780 年 ～ 現在	初期には、大陸氷床の融解によって海面が 130m 以上上昇した。気候最温暖期と呼ばれる時代には、現在より 3m から 5m ほど海水準が高かったとされる (縄文海進)。その後、海面は緩やかに下降し、海水準はここ 2,000 年ほどは比較的安定している。大きな川の流域などで、徐々に人類が文明を築き始めた。
		更新世	258 ～	氷期・間氷期の氷床の拡大・縮小による海水準変動に伴って、海岸線の位置が移動した。後期では海水準にして百数十メートルの変動があった。海水準が低下した時期は、現在浅い海である海域の多くが陸地となっていた。
	新第三紀	鮮新世	533 ～	気候は寒冷化しており、南極大陸は中新世よりもさらに氷床を拡大していた。北半球での氷床の発達もこの時代に既に始まっていた。
		中新世	2,303 ～	大陸はほぼ現在の様相だが、北アメリカ大陸と南アメリカ大陸は離れている。ヨーロッパのアルプス山脈と北アメリカのロッキー山脈で造山運動が始まった。日本がユーラシア大陸から分離し、日本海が形成された。
	古第三紀	漸新世 ぜんしんせい	3,390 ～	アメリカとヨーロッパは大西洋の拡大により分断されたが、北アメリカとアジアはベーリング海峡でしばしば接続し、動物の行き来があった。アフリカ・南アメリカ・オーストラリア・南極の各大陸は海で隔てられている。アルプス、ヒマラヤ山脈の造山運動が開始された。
		始新世	5,600 ～	ヨーロッパと北アメリカは更に大きく離れて大西洋が拡大し、両大陸の連絡は始新世中期には絶たれたが、北アメリカとユーラシアはベーリング海方面で次第に接近し、陸橋となっていた。既に南アメリカと分離していた南極大陸・オーストラリア大陸塊は始新世半ば以降分裂した。インドはアジア大陸に接近しつつあった。
		暁新世 ぎょうしんせい	6,600 ～	アフリカと南アメリカは完全に離れ、アフリカと南極大陸も大きく離れていた。ヨーロッパと北アメリカはまだ陸続き状態であった。インドは巨大な島となってインド洋上を北に向かって移動しており、全ての大陸から孤立していたので、次の時代である始新世にアジアに接近するまでは哺乳類は生息していなかった。
	中生代	白亜紀	1 億 4,500 ～	温暖な気候と高海水準で特徴付けられる時代である。終わりを示すイリジウムが大量に含まれた地層が見つまっている。これは、6,430 万年前にユカタン半島およびメキシコ湾にある巨大なクレーターを作った隕石の破片が地上に降り積もった物と考えられている。この時の気候変動が、恐竜絶滅に関係あるという。
		ジュラ紀	2 億 136 ～	初期にパンゲア大陸がローラシア、 Gondwana へ分かれ始めた。後期には Gondwana 大陸が分裂し始めた。ジュラ紀にもっとも進化した生命は海洋での魚類と、海洋で暮らす爬虫類 (魚竜、首長竜など) である。始祖鳥が現れたのもこの時代。映画の『ジュラシック・パーク』の名は、このジュラ紀によるものであるが、実際にそこに登場する恐竜はほとんどは白亜紀のものである。
		三畳紀	2 億 5,190 ～	三畳紀には、ほとんど全ての大陸が合体し、パンゲア大陸と呼ばれる超大陸が形成されていた。パンゲア大陸の周囲には、パンサラッサ、東側にはテチス海と呼ばれる湾状の海が広がっていた。気温は徐々に上昇していった。ペルム紀に 30% 程あった酸素濃度も 10% 程度まで低下し、ジュラ紀頃までの約 1 億年もの間、低酸素状態が続いた。
古生代	ペルム紀	2 億 9,890 ～	初期には、赤道付近に存在していたユーラシア大陸と、南半球から北上してきた Gondwana 大陸が衝突し、パンゲア大陸と呼ばれる超大陸が形成されていた。北半球にはシベリア大陸が存在していたが、やがてシベリア大陸もパンゲア大陸と衝突し、ウラル山脈が形成され、ほぼ全ての陸地が 1 つの超大陸としてまとまることとなった。	
	石炭紀	3 億 5,890 ～	パリスカン造山運動の活動期に当たる。デボン紀から存在していたライク海は Gondwana 大陸とローラシア大陸にはさまれて末期には消滅し、これがやがて次の時代のパンゲア大陸となる。ライク海の消滅と歩調をあわせるかのように生物の陸上進出も進んだ。	
	デボン紀	4 億 1,920 ～	シダ状の葉を持つ樹木状の植物による森林、両生類、昆虫の出現。後期から石炭紀初期は、5 大大量絶滅の一時期であり、この時期に海洋生物種の 82% が絶滅した。	
	シルル紀	4 億 4,380 ～	南半球には Gondwana 大陸があり、赤道付近には、シベリア、ローレンシア、バルティカという中大陸、そしてアパロニアという小大陸があった。大陸の間にはイアベトゥス海という浅い海が広がり、多くの生物が繁栄していた。3 つの大陸は徐々に接近し、約 4 億 2,000 万年前に衝突した。	
	オルドビス紀	4 億 8,540 ～	生物の多様化がカンブリア紀並に進んだ時代である。オウムガイの全盛期で三葉虫のような節足動物や筆石のような半索動物が栄えた。甲冑魚のような魚類が登場したのもこの時代である。終わりに大量絶滅が起こったとされている。	
	カンブリア紀	5 億 4,100 ～	先カンブリア時代によって形成された海洋が地球上のほぼ全てを覆い尽くす。海中では様々な種類に至る海洋生物が現れ、中でも三葉虫等の節足動物、藻類が繁栄した。この時代に動物の多様性が一気に増大した可能性がある。これをカンブリア爆発と呼ぶ。	
原生累代		25 億 ～	藻類によって酸素の放出が始まり、オゾン層ができて紫外線が地表に届かなくなった。また、古細菌類から原始真核生物が分岐し、さらに α プロテオバクテリア (後のミトコンドリア) が共生することで現在の真核生物が成立した。後期には多細胞生物も出現した。	
始生累代		40 億 3,000 ～	系統樹による推計では、この時代の初期に全生物最後の共通祖先が現れ、細菌の祖先と古細菌類の祖先が誕生したと推定されている。	
冥王時代		46 億 6,700 (地球誕生) ～	この時代に地球が形成され、地殻と海ができ、有機化合物の化学進化の結果最初の生命が誕生したと考えられている。化石以前に、岩石自体が非常に希であり、地質学的証拠があまりない時代である。	

仲田崇志作成年代表 (更新: 2017 年 2 月 17 日) より (<http://www2.tba.t-com.ne.jp/nakada/takashi/strat-chart/strat-chart.html>)

Copyright(C)2009 - Yoshiharu Okada